

第二回伊東市新図書館基本構想策定委員会 議事録

日時：令和2年9月28日（月）15時00分～17時00分

会場：伊東市役所庁舎 低層棟3階 議会棟 第2委員会室

「出席」

| | | | |
|---|---|---|-------|
| 委 | 員 | 長 | 植松貞夫 |
| 副 | 委 | 員 | 竹之内禎 |
| 委 | | 員 | 大村滄子 |
| 委 | | 員 | 辻 恵 |
| 委 | | 員 | 溝口玄 |
| 委 | | 員 | 齋藤秀輝 |
| 委 | | 員 | 上村真理子 |
| 委 | | 員 | 池田千栄子 |
| 委 | | 員 | 石川弘夫 |
| 委 | | 員 | 齋藤克子 |

「事務局」

| | | | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 教 | 育 | 部 | 長 | 岸 | | | | | |
| 生 | 涯 | 学 | 習 | 課 | 長 | 杉 | 山 | | |
| 生 | 涯 | 学 | 習 | 課 | 長 | 補 | 佐 | 鈴 | 木 |
| 生 | 涯 | 学 | 習 | 課 | 主 | 事 | 奥 | 田 | |
| 伊 | 東 | 図 | 書 | 館 | 館 | 長 | 鈴 | 木 | |
| 伊 | 東 | 図 | 書 | 館 | | | 菊 | 池 | |
| 伊 | 東 | 図 | 書 | 館 | | | 渡 | 邊 | |

第二回伊東市新図書館基本構想策定委員会 次第

日時：令和2年9月28日（月）

15時00分～17時00分

会場：伊東市役所庁舎 低層棟3階

議会棟 第2委員会室

開会

1 議事

- (1) 新図書館のコンセプト、サービス内容、蔵書目標、施設整備の目標面積構成について
- (2) その他

閉会

配布資料

【資料第6】コンセプト、サービス内容、蔵書目標、施設整備の目標面積構成について

1 議事

(1) 新図書館のコンセプト、サービス内容、蔵書目標、施設整備の目標面積構成について

これまでのご意見と拡充が必要なサービス内容の検討（【資料6】P1～14）

事務局より、資料6「コンセプト、サービス内容、蔵書目標、施設整備の目標面積構成について」、P1 から P14 記載の、これまでの意見と拡充が必要なサービス内容の検討について説明

○植松委員長

資料6のP1からP7では、これまでの経緯と、第一回策定委員会、市民ワークショップ、小学生から出た意見のまとめがあり、P8からP14にかけ、拡充が必要なサービス内容として具体的な7つの基本的機能に整理されている。

委員からの質疑・意見を伺いたい。

○大村委員

資料6のP13にある図1-29のキッチンスペースについてだが、調理実習等も可能な仕様なのか。また、市民や小学生、中学生等も使えるようなものなのか。

○事務局：鈴木課長補佐

新図書館においては、生涯学習センターとの融合を考えている。図書館に来館された方が生涯学習センターも利用し、生涯学習センターに来館された方が図書館も利用出来るような、回遊性を持たせた図書館にしたいと考えるため、調理実習や料理教室等はもちろんだが、図書館に配架されている料理の本を持ってきて、気軽に料理が出来るような設えができれば良いと考える。

○大村委員

収容人数はどれくらいか。

○植松委員長

こちらの資料は、生涯学習センター機能としてこういった部屋があるといいのでは、という提案であり、作ることが決定しているわけではない。例えば、この部屋はもっとこうした方が良い等、さらに意見を頂きたいということだ。こちらの資料にあるのは、あくまでもイメージを膨らませて頂く種として示しているものなので、収容人数等について提案があれば意見を出して頂きたい。ここに案としてあるトレーニング室も決定事項ではなく、可能性として示している。

資料6のP2にある、大池小学校の総合学習で提案された「犬や猫などとともに過ごせる図書館」というのは、具体的にどういったものか。

○事務局：鈴木課長補佐

おそらくペトルームを併設したような図書館と考える。小学4年生の意見なので、自由に独創的な意見を述べて頂いた中で、ペットも同伴でき、ペトルームに預け一緒に本を読

む、そのような空間をイメージしていると考え。

○植松委員長

猫はまだ難しいが、北欧では多くの図書館が犬の同伴は自由であり、館内で一緒に過ごしている。

ほかに意見は無いか。例えば、8つ目の機能としてこういうものを加えたら良いのでは、これは統合しても良いのではないか等の意見は無いか。

○辻委員

先ほどの大池小学校の総合学習についてだが、障がい者の負担を軽減するための意見があった。これから様々な検討がなされると思うが、身体の不自由な方はもちろん、視覚障がい、聴覚障がいの方が利用しやすいよう、図書館職員の方がサポートできるような、障がい者に優しい機能があると良いと考える。また、今は発達障害の子どもも多い。そういう子どもにも、おはなしを聞かせることで気持ちが安らぐような、静かな部屋等もあったらいいと考える。

○植松委員長

図書館職員にすべてを託すのは、実際にはなかなか難しい部分もある。そのため、市民の方々と一緒にそういったサービスを展開していく体制が出来るのが一番望ましい。例えば、現代ではコンピューターで文字を読み上げる機能も発達している。

○辻委員

親子で過ごせたり、完全に目を離すことは出来ないと思うが、高学年の子どもであれば、落ち着いて本が読めるなど、部屋とまではいかななくてもちょっとしたスペースがあると良いと考える。

○植松委員長

小さい子ども連れの利用者は、周りに迷惑をかけるんじゃないかと、図書館にはなかなか行きづらいという話をよく聞く。これからの図書館はどちらかというと、通常のスペースでは会話が出来て、静かになりたい人が利用出来る部屋を作るのが、基本的な考え方になってきている。

○石川委員

P10の伊東市情報センター機能（案）についてだが、伊東図書館は伊東に関し、専門図書館としての役割があると考え。現図書館は、寄贈本の受け入れのスペースが十分に無いため、新図書館においては、十分なスペースを確保して頂きたい。そして伊東に関する図書資料等は、今にも増して積極的に収集・保存し、利用者に提供して頂きたいと考える。私が伊東図書館に勤めていた頃、市内のお寺だった家から、江戸時代後期に活躍した伊豆の国学者・竹村茂雄が書いた貴重な本や、伊東について執筆された方が亡くなられた際に、ご遺族から伊東に関する大量の図書資料等を寄贈頂いた経験がある。このようなこともあるので、新図書館にはぜひ寄贈本や資料を置くスペースを広く確保して頂きたいと考える。

○事務局：鈴木課長補佐

郷土資料のエリアに関してだが、現図書館の面積は953㎡であるので、一般コーナーや児童コーナーのスペースを考えると、郷土資料コーナーのスペースが十分に無いのは事実である。郷土資料の配架は非常に重要だと考えている。後ほど面積構成を説明するが、新図書館においては、委員のみなさまや市民ワークショップで出された意見を踏まえ、十分なエリアを設けたいと考える。

○溝口委員

資料6のP10にある伊東市情報センター機能(案)において、貴重な郷土資料スペースとともに観光場所を調べるような、ICTを活用した観光情報コーナーを2階以上に設置するとあるが、観光情報は入り口に設置した方が観光客にとって調べやすく、かつ「ここに行こう、あそこへ行こう」とイメージが広がりやすいのではと考える。

○植松委員長

カフェと一緒にする等でも良いかもしれない。

○溝口委員

ティーンズコーナーに配架するライトノベルや漫画、アニメ等についてだが、私が学生の頃は、漫画は駄目というのが風潮としてあった。新図書館では、どれだけ若者を取り入れるかが課題でもあると考えるが、そのために漫画を配架する方向に転換するということか。

○植松委員長

市民ワークショップでは、どのような意見だったのか。

○事務局：鈴木課長補佐

市民ワークショップや小学生ワークショップでは、「漫画やライトノベルを入れてほしい」という意見が上がっていたが、公立図書館として漫画を置く事が適しているかといった議論にまでは達していない。ただ、様々な意見を伺う中で、個人的には漫画等も置いていいのではと考える。色々な図書館を視察する中で、人気の漫画本は常に貸し出しされているという状況も見た。また、日本の漫画は文化として、経済産業省が実施しているクールジャパン政策を代表する要素である。それだけ日本の漫画というのは世界的にも価値の高いものという認識であるので、可能であれば漫画も配架していくのが理想と考える。

○植松委員長

どこまでの漫画を配架するのかという線引きは難しいかもしれないが、例えば新潟市の「ほんぽーと中央図書館」では、市出身の漫画家による作品を置いている。日本の漫画はポップカルチャーとして世界的に評価されているため、しかるべく集めるということも多く図書館で始めているところだと考える。

○竹之内副委員長

世界文学、日本文学を漫画で紹介するようなシリーズを集めているところもある。大変人気で、回転率も高い。

○植松委員長

図書館でテレビゲームを揃えるところもある。特に外国では、図書館でテレビゲームを提

供するという事は多い。

○竹之内副委員長

日本の常識とはだいぶ違うが、ドイツの図書館でも、ゲーム機本体が高価なので、お試しで出来るというのが当然のようにサービスの一環として取り入れられていた。

○齋藤克子委員

児童の託児スペースにも、小さい子用の絵本の書架を設置すると良いと考える。

○事務局：鈴木課長補佐

児童エリアは、「子育てしやすい街づくり」を目指す中で、重要な要素だと認識しているため、頂いた意見を踏まえ、託児エリアにも可能であれば書架設置等を検討していきたい。

○植松委員長

それでは全体の流れとして、前回の策定委員会、市民ワークショップ、小学生等のご意見を伺った結果として、新図書館において、これまでの伊東図書館からさらに拡充が必要なサービスとして、①交流機能、②一般コーナー機能、③伊東市情報センター機能、④児童コーナー機能、⑤ティーンズコーナー機能、⑥生涯学習センター機能、⑦ICT機能の7つの機能を柱とすることで異議ないか。

(異議無し)

○植松委員長

異議無しということで、委員の皆様にお認め頂いた。

伊東市新図書館コンセプト（案）（【資料6】P15）

事務局より、資料6「コンセプト、サービス内容、蔵書目標、施設整備の目標面積構成について」、P15に記載の伊東市新図書館コンセプト（案）について説明

○齋藤克子委員

現在は市内にも、また市外から来られる方にも、伊東の図書館ではこんなことをやっているという情報発信がなされていない。何をやっているのか、どんなものを展示しているのか、例えば駅など、図書館とは別の場所で情報を発信することも必要と考える。私自身も図書館で展示をやっており、知人のついででホテルにチラシを貼ってもらったら、市外の方がわざわざ見に来てくれたことがあった。やはり情報発信はとても大事だと考える。

○植松委員長

市役所はもとより、駅や道の駅などに、市内のこういった施設がこんなことをやっているという情報発信が出来るのは良いことだと考える。新しい図書館の拡充機能として、図書館単独ではなく、市内の様々な組織と連携を強化するような、市民サービス全体と連携する図書館にする等が、活動面として追記されると良いと考える。

○齋藤秀輝委員

今は SNS の時代で、美術館や博物館でも、コロナ禍での非来館サービスとして、オンライン上でも作品を見られるようにしている。もちろん道の駅や観光名所にチラシを置く、貼る等も大切だが、それではそこに行った人しか情報を得られない。SNS の場合は、どこにいても携帯電話さえあれば見られるので、市民サービスと連携しながら「伊東の図書館はこんなのだよ」と分かるようなものがあれば良いと考える。大和市は東名高速道路上に「年 300 万人来館 大和市シリウス図書館」という横断幕を掲げている。あのような情報があると「この図書館はすごいのかな、行ってみようかな」と思う。色々な場所にチラシ等を置くのと並行し、現代の情報網もどんどん活用しながら広報していくことも必要だと考える。

○植松委員長

P14 の ICT 機能（案）にある、非来館型サービスの一環だと考える。

○竹之内副委員長

P15 にあるコンセプト案は、図書館を作るうえでのキャッチフレーズだと思うが、具体的にどういう場面で使う想定なのか。

○事務局：鈴木課長補佐

年度内に策定予定の基本構想の中に、新しい図書館とはこのようなコンセプトで作っていくと掲げるものである。これだけを見ると具体的に何をするのか判りにくいため、このコンセプトに基づいた図書館を作るためにも、具体的にどのような政策を立てていくのかということ議論しながら、市民のみなさまに PR していきたいと考える。

先ほど齋藤秀輝委員から発言のあった SNS の件だが、現在、生涯学習課でも Instagram を活用し、各種イベント等の情報を発信している。新図書館建設に関しても、SNS も活用する中で、コンセプト等についても PR して、これまで図書館に興味の無かった方、また市外の方に対しても、伊東に新しい図書館が出来ることに好奇心を持って頂きたいと考えている。

○植松委員長

今、説明があったような位置づけとして、「夢と未来を育む図書館～ひとりひとりの創造拠点～（案）」、新しい図書館像を示す基本コンセプトとして、これを用いるということか。

（異議無し）

○植松委員長

異議無しという事で、そのように進める。

——換気により休憩——

○植松委員長

それでは再開する。

2 伊東市新図書館コンセプト(案)について、休憩前にご決定頂いたところであるが、休憩中に大村委員から申し出があったため、意見を伺いたいと思う。

○大村委員

「夢と未来を育む図書館」は大変すばらしいコンセプトであると思うが、「夢と未来」は若者を象徴する言葉に感じ、新図書館としての方向が若者に向いているような気がする。シニアも含め全世代を包括する言葉として、文化という言葉を入れ「夢と未来と文化を育む図書館」とするのはどうか。シニアをはじめ、全世代の生活、歴史、伝統を、文化という言葉に込められている。

また、ひとりひとりの創造拠点のひとりひとは、あえて平仮名なのか。国語的には一人ひとりだと考える。

○事務局：鈴木課長補佐

他市のコンセプトや自分たちの想いを考える中で、当初は文化という言葉や、継承というような表現を使うという意見もあった。課内で議論する中で、やわらかい表現にした方がより親しみやすいのではという意見が多くあり、このようなコンセプト案を提示させて頂いたところである。しかし、委員からのご意見を踏まえ、「夢と未来と文化を育む図書館」とすることについて、委員のみなさまに再検討頂きたい。

それから、ひとりひとりについては、やわらかいイメージを持たせるため、あえて平仮名にした。

○植松委員長

大村委員から、「夢と未来と文化を育む図書館」として文化を入れた方が歴史等の継承性が含まれるのでは、という意見があった。

○竹之内副委員長

好みの問題でもあるが、あまり長くなると響きとしてどうかということもある。委員のみなさまの意見を伺いたい。

○植松委員長

資料6のコンセプト案の下に説明文として「伊東の知・文化・歴史を収集記録し…」と記載があるので、「夢と未来を育む図書館」というコンセプトの中に、当然のことながら伊東市がこれまで育ててきた文化や、継承してきた歴史・発展を含めているという理解で、コンセプトはこのままということによろしいか。

(異議無し)

○植松委員長

異議無しとの事なので、そのように決定するが、夢と未来を育むというフレーズの中に、当然の事ながら、これまで伊東市が育ててきた文化、伊東市が継承してきた歴史というもの

を読み込んでいるという旨、記述して頂く事とする。

蔵書目標の設定(案)、施設整備の目標面積構成(案) (【資料6】P16～20)

事務局より、資料6「コンセプト、サービス内容、蔵書目標、施設整備の目標面積構成について」のP16からP20までに記載の「3 蔵書目標の設定(案)」と「4 施設整備の目標面積構成(案)」について説明

○齋藤克子委員

3つの案を見ると、どれも4つのゾーンに分かれているが、現図書館は4階建てで、1階が閉架書庫、2階が図書館部分、3階がイベント等を行う会議室などがある。この案は、どのように割り振る想定なのか。

○事務局：鈴木課長補佐

現段階ではあくまで、出されたご意見と文部科学省の示す基準等を踏まえながら目標面積構成と蔵書冊数等を決定している段階である。現在は、面積構成の計算にすぎず、どのフロアにどのエリアを配置するか等のゾーニングについては、次回以降の策定委員会にて審議頂く形で進めていきたいと考えている。

○齋藤克子委員

現在は図書館の1階に、移動図書館「ともだち号」の駐車スペースがあるが、この案の中には無い。これは一般の駐車場に駐車するということか。「ともだち号」は本を運ぶものなので、専用の本があり、本の入れ替えもある。専用の本を置くスペースも必要なため、やはり現在と同様、図書館内に駐車スペースと本を置くスペースが必要である。

また、仮にC案になった場合、作業スペースが無いが、本を出すと段ボールが出たり、除籍資料をまとめたりするのも作業スペースは必要だ。A案とB案では作業スペースは49㎡となっているが、最低でも現在の36㎡は必要と考える。また、書架についてだが、絵本に限らず、特に子ども向けの本は、小さいサイズから大きいサイズまでであるため、新図書館では棚板を動かせる書架が良いと考える。大型の絵本や大型の紙芝居は奥行きもあるため、それも配慮した書架があると良い。

○植松委員長

事務局からも説明があったとおり、この3つの案にある数値は、細かい数字なのでリアリティがありそうに見えるが、これはあくまでも全体としてどれくらいになるかといった目安として出したものである。例えば、A案の検索端末台が12㎡とあるのは、3m×4mの場所を設置するというを示しているわけではないとご理解頂きたい。今、齋藤委員が述べられたように、子どもエリアについては、絵本や紙芝居は表紙見せにするのが好ましい等、いろんなご意見があると思うが、例えばA案の児童開架スペースが430㎡程度あれば、58,000冊程度が収まるという、あくまでも目安であるということをご理解頂きたい。

こういった規模計算をするのが私の専門なので申し上げますと、図書館はほかの建物種別

と比べ、通路や廊下やトイレ等はきっちりと計算してスペースを設けるものでは無いため難しい部分ではあるが、全体の余裕度はこのくらいあれば良いと考える。

○石川委員

ホールについてだが、現生涯学習センター中央会館は2階が図書館で、3階に視聴覚室や会議室があり、イベント等をそこで行い、その流れで、参加した人々が図書館で関連の本を借りるといったことが多かった。イメージとして、新しい図書館にもそういったホールが出来るかと想定していた。

○事務局：鈴木課長補佐

ホールといっても大きなものから小さなものまで様々だが、記載のホールというのは、あくまでも平成29年に小野市長が就任した際に公約として掲げていた、文化ホールのような規模では無いという理解である。現在、生涯学習センター中央会館で音を出せるホールは視聴覚室のみであるので、その視聴覚室の機能を移行する程度の規模と考えて頂きたい。面積としては360㎡とかなり大きいですが、面積割をしていく中で、このくらいの大きさのものを作ることが可能という理解であり、観光会館のように音楽フェスティバルをやるようなホールは想定していない。ただ、建築費が許すのであれば、座席を配置する等、生涯学習センターひぐらし会館のホールのようなものも、面積としては充分設置可能だと想定する。

○石川委員

新図書館には100人程度の催しが出来るような、ホールのような場所があると認識して良いか。

○事務局：鈴木課長補佐

こちらの目標面積構成案の中では、図書館の催事と一体的に活用できるよう、120席程度配置可能な視聴覚室のようなホールを想定しているが、掛かる経費に鑑み最終的な設計の段階で削る可能性も否定できない。そういった部分も含め、この策定委員会や市民ワークショップで様々な議論をして頂き、必要な諸室について再度ご検討頂きたい。

○植松委員長

A案の場合、図書館の中に120席程度配置可能なホールがあるが、今後の議論によっては変更もありうる。場所としても、イベント等が終わった後にそのまま閲覧席に出てきて、そこで関連する本を読んだり、借りたり、複合的・融合的に使えるようなホールにしようということが、P13にある生涯学習センター機能を融合的に活用するという事として、この資料はまとめられているということでご理解頂きたい。

○齋藤克子委員

現在は4階の第一会議室が一番広く、視聴覚室の方が狭いが、この2室が特に利用が多い。この資料によると、広さが逆になっていて新図書館では視聴覚室の方が大きく、逆に第一会議室の方が小さくなっている。現在、視聴覚室はすでにテーブルが配置されていて移動が大変で、第一会議室の方が広範囲の方が利用するため利用者は多い。部屋として、第一会議室は120席ぐらい置けるスペースが必要だと考える。

○植松委員長

そのような規模設定は可能だが、例えばこのA案でいえば、第一多目的室と第二多目的室を、必要に応じて間仕切りを取り払えるようにしておくとか、そういうことも設計上は可能だ。そういったことも今後、みなさんで議論して決めていきたい。

○大村委員

この視聴覚スペースの中には、視覚障がい者のための、録音をするような設備も設置する予定はあるのか。

○植松委員長

それはA案でいえば、①一般図書ゾーンの話か。

○大村委員

そうである。

○植松委員長

その設備は視聴覚室ではなく、対面朗読室に設置されると考える。

○事務局：鈴木課長補佐

齋藤委員からご指摘があった、現生涯学習センター中央会館との比較で補足すると、④その他（生涯学習センター機能等）エリアで、ホールと記載のある箇所、A案でいえば360㎡で120席だが、現在の視聴覚室は115㎡である。この案で第一多目的室（200㎡）にあたる現在の第一会議室は約140㎡なので、60㎡程度増加になる。

伊東市には現在、1,000人規模が収容可能な観光会館と、生涯学習センターひぐらし会館の3階にある204席のホールがあるが、今回のホール（視聴覚室）を広めに設定した理由としては、市民ワークショップや地域タウンミーティング等において、新図書館の建設にあたり、音楽の催事等がコンパクトに出来るような部屋を盛り込みたいという意見もあったと記憶している。こちらにも実際に建設に進むにあたり、現実的ではない等の議論が多くあれば、削除する考えもあるので、その辺も含め議論頂きたいと考える。

○植松委員長

C案として、書庫を設けず、すべて開架という案があるが、例にあげてあるような武蔵野市の「武蔵野プレイス」の場合は、武蔵野市立図書館の分館であり、長期間保存するような資料においては、本館が担っている。このように分館であれば100%開架という方法も可能だが、今回のように中央図書館として、資料を安定かつ長期的に保存することを考えると、書庫を設けず、すべて開架にするのは非現実的と考える。仮にすべて書庫を設けないとすると、7,000㎡ちょっとの面積が必要だという、あくまで一例としてとらえた方が良く考える。

また、例えばA案では、こういった部屋がもっと必要ではないか等のご意見があれば、ぜひご指摘頂きたい。

○齋藤克子委員

おはなしの部屋についてだが、40人収容可能となるとかなり大きい。おはなし会だと、

40人も来ない。これだと、子どももどこに座って良いか分からないので、大きすぎるように考える。

○植松委員長

例えば、おはなし会等の準備のため、紙芝居や人形劇用の台をしまっておく場所などを、おはなし室に付随して作るということも可能だ。

○齋藤克子委員

今現在も、読み聞かせをしている場所に、紙芝居用の道具などが置かれている。そこは少し狭いが、それでもこれは広すぎると感じる。できれば、そういったおはなしの部屋にも、周りに低い書架などを配置して頂ければと考える。児童書については、定期発行の冊子等があるので、そういったものを並べるなど出来れば良いと考える。

また、キッチンスペースについてだが、個人的な意見になるが、伊東市健康福祉センターに大きなキッチンがあり、新図書館建設予定地のすぐ近くなのでそこを利用し、その分ほかのスペースを盛り込んだら良いのではと考える。

○植松委員長

最近の図書館で、キッチンスペースを取り入れる理由のひとつとしては、例えば、図書館から料理の本等を持って行き、その本を参考にしながらみんなで料理をする等が出来るという利点がある。

○齋藤克子委員

そうするとそんなに広さは必要ないのか。

○植松委員長

そう思われる。ほかに、意見、質問等はないか。

(意見、質問等無し)

○植松委員長

意見、質問等無いとの事である。

それでは、新図書館については、現図書館と比べ、相当規模の大きい5,000㎡以上を面積目標とし、蔵書冊数目標としても33.3万冊で、資料6のP17「算出にあたっての諸条件」をもとにA案、B案、C案で、さらに検討を進めていくということで良いか。

(異議無し)

○植松委員長

異議無しということで、このような方向で、さらに検討を進めていく。今後、もう少しリアリティのある計算をしていくことで、お示しした目標面積構成等の数値も当然変わることをご理解頂きたい。

○植松委員長

それでは、発言されていない委員もいるので、資料6全体について、質問、意見等は無い
か。

○齋藤克子委員

大人用も子ども用も、出来るだけ多く本が置けると良いと考える。

○石川委員

P10の伊東市情報センター機能(案)に関し、源頼朝の話をさせて頂く。私は伊東市役所
在職中、伊東市史編さんに3年ほど携わった。伊東市史編さんで、中世を担当された創価大
学の坂井孝一先生は『伊東市史』伊東の歴史I 通史編(原始から戦国時代)(2018年3月発
行)の中でこう書いており、その一部を引用する。「源頼朝の配流先も伊豆に決まった。た
だし、伊豆の中でも広く一般に知られている蛭ヶ小島ではなかったと考えられる。(途中省
略)14歳の頼朝は、伊東で永暦元年(1160年)に当主の地位にあった伊東祐継(曾我兄弟
の仇・工藤祐経の父)のもとで流人生活を始めたのである。」また最近、京都大学の元木泰
雄先生が『源頼朝』武家政治の創始者(2019年1月/中公新書刊)の中で、「彼(源頼朝)
を最初に監視したのは、かの曾我兄弟が仇敵とした工藤祐経の父、祐継であったとされ、頼
朝の配流先もその所領、伊東と考えられている。」と、坂井先生と同じ考え方をされている。
さらに数か月ほど前には、テレビ番組で源頼朝を取り上げており、元木先生が解説者として
出演し、その番組では、「源頼朝は14歳で伊東へ流された」とはっきり述べていた。以上の
ように、源頼朝が14歳で伊東に流されたとすれば、伊東で語り継がれている流人頼朝と伊
東祐親の三女八重姫との悲恋物語も納得出来るところだ。源頼朝関係の図書資料等も郷土
資料となっていると思うが、最近の研究資料等も重点的に収集し、提供して頂きたいと考
える。

○事務局：鈴木課長補佐

こちらでも可能な限り、最新の情報を収集する中で、伊東市情報センター機能の充実を
図って参りたいと考える。

○植松委員長

この場では発言しにくいということもあると考えるので、お気づきの点はメール等を利用
し、事務局あてにご連絡頂きたい。

(2)その他

その他、全般に関して意見はあるか。

(質問・意見無し)

○事務局：鈴木課長補佐

本日は、ありがとうございました。P18以降に記載している面積構成については、素案で

あるので、委員のみなさまのご見識の中で、意見やご要望があれば事務局までご連絡頂きたい。市民ワークショップもあと2回あるが、そこで出された意見も踏まえ、検討を続けていく考えなので、引き続きよろしくお願ひしたい。

閉会